

## 佳作

### 私の知らない寒河江市

山形県寒河江市立陵東中学校

3年 河野 綾音

「ありがとさんだねえ。」「昔はねー。」まだ私の知らない寒河江市がそこにはあった。

この中学3年生の夏休み。自分の意思で初めてボランティアに参加した。その活動は私にとって新鮮で、知らないことをたくさん体験させてくれた。

8月5日、ハートフルセンターで行われた給食配達のボランティア。寒河江市の高齢者世帯への給食配達の助手をするという内容だ。午前10時にハートフルセンター2階の寒河江市社会福祉協議会へ私と友達一人と向かった。参加したのは私と友達と高校生の計3人だけだ。

まず担当の方から活動について話を聞いた。六つの配達ルートがあり、それぞれ車で給食を届ける。配達する前にドライバーの方々と担当の方とでミーティングを行った。バインダーに挟まれた届け先の名前、住所などが記された紙を真剣に一つ一つチェックしながら見ていた。そんな皆さんを見て「私も真剣に取り組んで、ミスをしないように気を付けよう」と心の中で決心した。

一方、ハートフルセンター1階の給食調理室では着々と給食が作られていた。話を終えた後に外へ行き、車に給食を積む作業をした。どんな給食なのだろうと思い、見てみたら、栄養バランスの良いメニューになっていた。「おいしそう。」とつぶやいたら年配の女性に「ふふっ、そうですね。」と笑顔で返事をされた。

給食は届ける方によって違って、弁当の人もいれば、発泡スチロールの大きめの長方形の箱に入っているものもある。箱の表面には、「ご飯少なめ」と書かれた紙が貼ってあった。一人一人ご飯の量も調節されているのだと分かった。

私は今回2コースを担当した。ドライバーの方と、もう一人、助手で年輩の女性の方とで配達をする。

緊張しているのを感じたのか、助手の方がたくさん話をしてくれた。時々「どこらへんに住んどるのー?」「学校楽しい?」などの質問もしてくれた。そのおかげで少し気持ちが楽になった。

届け先の家に着き、まず汁物の具材が入っている器に汁を入れる。それから渡す。渡す時に給食代を受け取る。

そしてここでもう一つ大切なことがあるのだ。それはコミュニケーションである。体調を伺ったり、最近あったことを質問したり、世間話でも話すことは大事だと教えてもらった。そのため、私は笑顔で元気よく対応した。

届け先のおばあちゃんから、  
「若い子が来てうれしいわあ。元気出たわ、ありがとさんねえ。」  
と言われた。

「ありがとうございます。」  
と答えた。少し気恥ずかしい気持ちもあったが、とてもうれしかった。私が来  
ることで誰かが笑顔になるなら、それだけでとてもやる気になった。

10軒くらい家を回り、ハートフルセンターへ戻る途中に、助手の女性の方に、  
「寒河江市のどんなところが好き？」  
と問われた。

「そうですね。自然が多くて、果物もおいしいですし、のどかな所が好きです。」  
と答えた。

「そうなんやね、寒河江にずっといてほしいわ。」  
そう言われて、私も寒河江市民なんだと改めて感じた。もちろんずっといら  
れるなら寒河江市にいたい。私は自分で思っているよりこの場所が好きなんだ  
と感じる瞬間だった。

無事に戻り、まだ他の人たちは来ていなかった。給食調理室にいたおばあさ  
んがキンキンに冷えた緑茶を用意してくださった。日差しが強く暑い夏の日。  
配達を終えてやり甲斐が溢れた気持ちに、よく冷えたお茶はとても体にしみた。

中学最後の夏休み。ボランティアで触れた人と人とのつながり。共に支え合  
って毎日を生きているのだと心から感じた。もう寒河江市に9年近く住んでい  
るが、改めてここはいい場所だなとしみじみと感じた。

まだ私の知らない寒河江市が、見えなかつただけでたくさんあるのだ。きっ  
と探そうとすればさまざまなことを知って学ぶことができる。実際に見て、触  
れることはこれからも大切だとボランティアを通して学んだ。

私はこれから、人との出会いを大切に、日常生活の中でも優しさを持って  
人と接したい。そして誰かを笑顔にしたり、支えることができる人になりたい。

そのためにも、ボランティア活動を通じて得た知識や経験を生かし、常に新  
しいことを学び続ける姿勢を大事に過ごしていく。